ハープの運搬

■運搬の際の全般的な注意

ハープは演奏者と一緒に移動する楽器の中では最も大きなものの一つです。ハープ運搬を専門に行う業者もありますが、演奏者自身が運搬する機会も少なくありません。
グランドハープの総重量は 35～38kg です。見た目ほど重くはありませんが、かなりの重量です。ハープ本体は、上部が大きく下部が小さい形をしているため、バランスの取り方に気を払う必要があります。コツが掴めれば運搬は格段に楽になります。

オーケストラやブラスバンドでハープを運ぶ際、10 人以上の人が群がって運んでいることがありますが、この方法では 1 人 1 人の責任と注意力が散漫になり、かえって事故が起こりやすくなります。移動距離が長い場合など、交代要員として人数がいた方が良いのですが、誰が何を受け持つか、どこで交代するかなどをあらかじめ決めておいた方が効率よく安全に運べます。
ハードケースなしで運ぶのなら、平面は楽器本体に 1 ～2 人、露払い（ドアの開閉、障害物の除去などを担当する）に 1 人、ハードケースの場合は本体 4～6 人、露払い 1 人くらいが効率がよいでしょう。

楽器やハードケースで視界が遮られますので、いずれの場合にも声を掛け合って安全を確認しながら移動させてください。

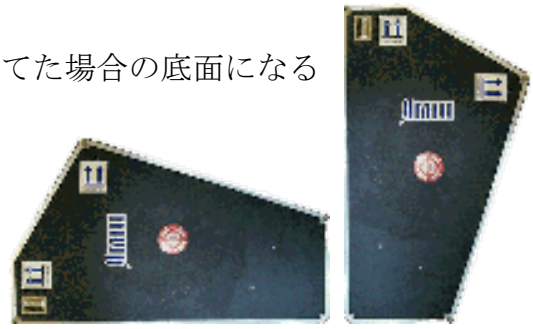
運搬中の楽器を保護するものにハードケースとソフトケースがあります。
ソフトケースは厚手のパッドのついたもので、ワゴン車などハープ単体を運搬する車が用意できる場合に使用します。他の楽器や荷物と一緒にトラックに混載場合には、ソフトケースではなくハードケースを使用します。

■ハードケースとトラック運送について

ハードケースは重量は約 50kg、楽器を格納すると総重量は 90kg 近くになります。サイズも高さ 208cm（キャスター部含む）、幅 116cm、奥行 70cm とかなりの大きさです。
弊社から楽器店や学校へのハープのお届けは、ハードケースに格納して、運送会社の混載便を使用しています。（※運送会社との契約上、個人宅へのハードケースでのお届けはできません。）
この混載便は、ハードケースの積み下ろしは必ずお客様がお手伝いいただくことを条件として特別に運送を引き受けていただいています。
ハードケースに格納されたハープをトラックへ積み下ろしする際には、安全に作業ができるようお手伝いいただく方を 4 人以上確保してください。

■ハードケースをトラックから降ろす

ケース表面の矢印マークに注意し、矢印の向いている側が必ず上になるようにケースを降ろします。上下を誤ると楽器本体やハードケースを破損してしまう場合がありますので、十分気をつけてください。



押すだけで簡単に移動できるように、ハードケースを立てた場合の底面になる部分にキャスターがついています。ハードケースの高さの関係上、トラックでは横位置で寝かせて運んでくる場合がほとんどですので、トラックから下ろす際、または降ろした後に、キャスター部が下になるようにハードケースを起こしてください。

■ハードケースでの移動

◇平面

ハードケース下部にキャスターがついておりますので、押すだけで簡単に移動できます。ただしケースはかなりの高さがありますので、天上から下がっている表示板や、出入り口などで天井が低くなるところに注意し、場合によっては寝かせたりする必要があります。寝かせる場合には必ずケース表面の矢印の向いている方を上にしてください。

◇階段

階段を使っての楽器の上げ下ろしは 4 人以上が必要です。

①ケース表面の矢印マーク（↑→）に注意し、矢印の向いている方を上にしてケースを横位置に倒します。

②4 つのハンドルを 1 人一つずつ持ちます。（ハンドルはケースの側面に 2 つ、底に 2 つついています。）

③静かに持ち上げて移動します。階段移動中は上り・下りに関わらず、常に矢印の向いている方が上になるようにケースの向きに注意してください。

■ハードケースから楽器を出す

楽器の出し入れは、ハードケースを立てた状態で行います。ケース本体や蓋が動くと作業しづらく危険ですので、１人がケース本体を、もう１人が蓋を支えて、合計 3 人以上で行います。

①掛け金を外します。掛け金はケースの上部に 1 つ、側面に 2 つあります。掛け金のハンドルを起こし、回転させて掛け金を外します。蓋は重量があり、掛け金を外していくごとに蓋が下がって掛け金が外しにくくなりますので、蓋が下がらないように支えながら掛け金を外してください。掛け金を全て外したら、ケース本体が動かないように支えながら、蓋をゆっくり開けます。

②機種によってはケースの中で楽器が動かないように詰め物がされている場合がありますので、詰め物を取り出します。
③ケース内の楽器固定ベルトの留め具を外します。
④ケースと蓋を支えている２人は、動かないようにしっかり支えます。

⑤楽器本体を取り出す人は、ベルベットカバー越しに右の手のひらを胴の穴に入れます。楽器の響胴には複数の穴が開いていますので、自分の体格に合った穴を選んでください。左手はベルベットカバーの合わせ目から手を差し込んで、柱を掴みます。
⑥ケースの中で柱を中心に胴を引き出すような感じで楽器を回します。
⑦胴と柱をしっかり掴んで、平行移動させるようにしてケースから出し、床の上にそっと置きます。
⑧楽器を安全な場所に移動させ、ハードケースの蓋を閉めます。（蓋を閉める際に楽器にぶつからないように気をつけてください。）楽器本体は下部にキャスターがついておりますので、楽器後方をやや持ち上げるようにすればそのまま移動することができます。
※このキャスターホイールは、屋内の段差のない床面での数メートルの移動を前提に設計されております。屋外や長距離の移動はキャスターの破損につながりますのでお気を付けください。移動距離が長い場合には、専用キャリアのご使用をお奨めいたします。
⑨使用する場所まで運んだら、楽器のベルベットカバーを外します。
⑩ペダルバーの先端は輸送の際の破損を避けるため、上に折りたたんであります。演奏する際にはペダルバーの先端を床と並行となる位置までそっと下ろします。

■ハードケースへの格納

練習終了後ごとにハードケースに格納する必要はありません。演奏会場への移動などでハードケースを使う際は、ハードケースから楽器を出したときと逆の手順で楽器を格納します。
①ハープ本体のペダルが全部フラットの位置にあるか確認し、すべてのペダルをそっと上に折りたたみます。
②ベルベットカバーを掛けます。

③ハードケースの蓋を開け、1 人がハードケース本体を動かないように押さえ、1 人がハードケースの蓋を押さえます。ハードケース本体がふらつくと非常に作業しづらいので、動かないようにしっかりと支えます。
④残りの 1 人がベルベットカバー越しに右手を楽器の響胴の穴に入れ、ベルベットカバーの合わせ目から左手を入れて楽器の柱を掴み、楽器の台座部分をケース本体の中に置くような感じでケースの中に楽器を入れます。このとき、ハードケースの本体と蓋を支えている 2 人は、楽器がケースの枠にあたらないように声をかけて

誘導します。
⑤台がケース内に入ったら、柱が正しい位置に来るように動かしたのち、柱を中心に胴を回転させ、腕木を押し込むように残りの部分をケース内に収めます。
⑥楽器固定のベルトの留め具をかけ、ベルトに弛みがないか確認します
⑥ケースの中で楽器が動く場合は何か詰め物をします。
⑦チューニングハンマーやスペア弦を一緒に入れる場合には、ケース内のポケットに収納します。
⑧ケースの蓋をそっと閉じ、3 箇所の掛け金をかけます。

■その他の移動

◇楽器本体だけで、階段やステージへの上げ下ろしなど段差のある移動をする場合

楽器本体は 2 人で運びます。※露払い、足元の確認などにもう 1～2 名必要です。
①ペダルが全部フラットの位置にあるか確認し、すべてのペダルをそっと上に折ります。
②1 人が楽器本体の胴の上部の穴に左手を上向きに入れます。（図 1-A，B）

図 1-A 左からみたところ

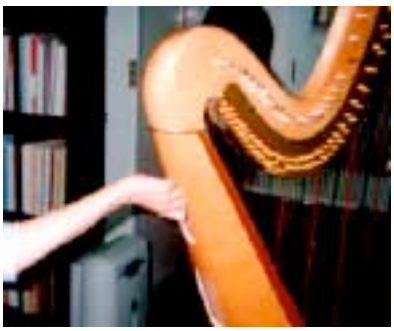


図 1-B 右から見たところ

②左手で楽器を倒しながら右手で腕木を支え、左右のバランスを取ります。このとき、腕木の高音側が体の後に出ないように注意します。（図 2）
③もう 1 人が楽器の台の下へ手を入れ、両手でゆっくりと持ち上げます。（図 3）
　＊前脚をつかむ方法は滑り落ちる危険性があるので、おすすめできません。
④2 人とも腰を伸ばします。（図 4）腰を曲げたままや中腰で運ぶと腰を痛めるおそれがあります。

図 2

図 3

図 4

⑤階段は腕木を支えている人が上、台を支えている人が下になるように上り下りします。
⑥平地に楽器を降ろす際には、後脚を傷つけるおそれがあるので、楽器を傾けすぎないように注意します。

◇ハープを単体でワゴン車などで運ぶ

①ワゴン車などの後部座席をフラットにし、布団やマットなどを弾いておきます。
②楽器本体の準備は、ハードケースへの格納時と同じようにします。
③ソフトケースがある場合には、楽器をソフトケースで包みます
④ディスクのある側（奏者が構える側から見て左）を上にしてシートに寝かせます。
⑤クラウンに荷重がかからないように､柱の下に座布団などを二つ折りにしたものを差し込みます。
⑥46A、46E などストレートボディの楽器は、右端のＡのペダルに負荷がかからないように響胴の下にも座布団などを差し込みます。（ラウンドボディーの楽器は羽根部分が張り出しているため、ペダルには負荷がかかりにくくなっています。）
⑦移動中に楽器が動かないよう、荷室内の空間に毛布や布団などを詰めて固定します。